

## 日本人口学会 2025 年度第 2 回東日本地域部会プログラム

日時： 2026 年 2 月 20 日（金） 14 時 00 分 ～ 15 時 30 分

会場： 東京大学 医学部 3 号館 N101

([https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_02\\_04\\_j.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_02_04_j.html))

Zoom(オンライン)

<https://us02web.zoom.us/j/85158560908?pwd=fb4C9GwCsnA544L2ibHkbeGztBbW9T.1>

ミーティング ID: 851 5856 0908

パスコード: 891393

### プログラム

14:00 - 14:45 気候変動を考慮した将来人口分布と極端気象リスクや 生涯総排出量の格差に関する研究

佐野太一（東京大学 大学院工学系研究科 社会基盤学専攻）

気候変動で猛暑や大雨が増える一方、被害を受けやすい地域と、これまで多く排出してきた国・世代の分布は一致しない。そこで本研究は、「未経験の極端気象」に曝露する人口と地域を全球と日本で推定し、次に出生年別の生涯 CO<sub>2</sub>排出を計算した。さらに気候リスクを組み込んだ将来人口モデルで両者をつなぎ、気候変動による原因と結果の不一致を可視化した。

14:45 - 15:30 「希望」は少子化対策を正当化しうるか

松井拓海（東京大学大学院総合文化研究科）

本報告ではまず、「人々の結婚・出産の希望を叶える」という、現在の少子化対策を支える論理が、子育て世帯への再分配政策を正当化し得ていないことを批判的に検討する。次に、そのような人口政策論の一つの系譜を、90 年代以前の人口学・社会政策学・福祉国家論に求める。最後に、「希望」ではなく、「人口」という概念の匿名性と普遍性こそが、これからの連帯の基礎になりうることを示す。

\* 1 件の報告は報告時間、質疑応答を含めて 45 分といたします。